大分合同新聞 2023年12月5日（火）朝刊 1面

中九州道の大分宮河内―犬飼IC

「山側ルート」国方針

災害時の機能評価

大分、熊本両県をつなぐ高規格道路「中九州横断道路」で未着手の大分宮河内―犬飼インターチェンジ（IC）間について、国土交通省九州地方整備局は4日、大分市吉野地区などを通る「山側ルート」で整備する方針を決めた。災害時の機能維持などから他のルートより優れていると判断した。今後は国が詳細を詰める作業に入る。事業化に向けて大きな一歩を踏み出した。

中九州道は大分市―熊本市間の120キロ。県内では犬飼IC―竹田IC間（25・3キロ）が開通し、東九州道に接続するルートが検討されてきた。国は昨年12月、「山側」「現道活用」「平地」の3案を県や関係自治体に提示。大分県が山側を要請していた。

整備の在り方を審議する有識者の委員会（委員長・円山琢也熊本大大学院教授）が4日、福岡市内で開かれ、国交省が方針を説明した。

山側ルートのメリットとして▽大野川流域の浸水想定区域をほぼ回避できる▽大分市の3次医療施設（アルメイダ病院）に30分以内で到着できる住民の数が最も多くなる―といった点を挙げた。

中間に設けるICは県の要望通り、吉野地区への設置を「妥当」とした。臼杵市との行き来が活発になるほか、国道10号が使えない場合のバイパス的な役割が見込めることも重視した。委員会も了承した。

事業着手の時期は未定。国は希少な植物がないかを調べる環境影響評価も実施する。詳細なルートは県の都市計画審議会を経て決まる見通し。

佐藤樹一郎知事は「早期事業化に向けた大きな前進でうれしい限り。全線完成に向けて、熊本県などと連携して国に強く要望する」とのコメントを出した。

（江藤嘉寿）

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。

大分合同新
ワークシート

年　　組　　氏名

大分合同新聞 2023年12月5日（火）朝刊 1面

記事をよく読んで、問①～⑤に答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕高規格道路「中九州横断道路」の全区間と距離を書いてください。

答え【　　】市から【　　】市間の【　　】キロ

〔問②〕現在、県内で開通している区間と距離を書いてください。

答え【　　】から【　　】

の【　　】キロ.

〔問③〕これから整備に向けて事業化される大分宮河内－犬飼IC間について、国が「山側ルート」の方針とする理由は何ですか。

〔問④〕大分宮河内－犬飼IC間の中間に設けるICを吉野地区が「妥当」とした理由を挙げてください。

〔問⑤〕中九州横断道路が全線開通したら、どのような効果が生まれると思いますか。自分の意見を述べてみましょう。

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。